



色とりどりの安全旗で旗の波

交通安全を呼びかける

飲酒運転ゼロ宣言式
旗の波街頭啓発



川湯温泉街で飲酒運転根絶をPR

人が参加しました。式では、大浦組合長が「飲酒運転をしない、させない、見逃さないを合言葉に、地域一体となって取り組みます」と宣言。立山登弟子屈警察署長からは、飲食店などでの掲示用にポスターなどが手渡されました。その後、参加者の皆さんは川湯温泉街を歩いて啓発を行い、協力を呼びかけました。

7月17日には、町交通安全運動推進協議会と町交通安全協会の共催による旗の波街頭啓発活動が、摩周観光文化センター前の国道391号で行われました。

全道夏の交通安全運動に合わせて毎年行われているもので、約70人が参加。参加者の皆さんは安全旗を手に、行き交うドライバーにパンフレットなどの啓発グッズを手渡し、交通安全を呼びかけました。

援農への思いをつなぐ

援農の碑記念式



援農の碑(上)と式典に参列した皆さん(下)

弟高生が職場実習



取材先であいさつをする清水君左と三浦君

弟子屈高校(木村浩士校長)2年生の職場実習が6月24・25の両日、町内各事業所などで行われました。役場でも4人が仕事を体験。このうち、清水皓太君、三浦翔君はまちづくり政策課で実習を行い、広報の取材・原稿作成にも挑戦しました。

右の援農の碑記念式の写真・記事は、清水君と三浦君が撮影・作成したものです。

摩周観光文化センターの敷地内に建つ「援農の碑」のもとで6月25日、援農への慰労の意を込めて式典が開かれました。

式典には「6・25会代表の高橋正秀氏をはじめとした関係者21人が参列。援農の碑の始まりは、戦時中に農業支援のため本町に派遣された農林学校生(岩手県久慈市)をたたえるためでした。先人たちが愛した「北上夜曲」に思いを込めて、参列者の斉唱が響きました。

1989年から始まった式典を中心とした交流も、今年で27年目。今年は、当時援農に従事した岩手県洋野町の佐々木幸次郎さんから祝辞もいただきました。

町の話



町の話

ヒグマへの理解を深めて

和琴小学校ヒグマの授業
チームくっしゅろによるくっしゅろ講座



ヒグマの頭がい骨に見入る参加者の皆さん



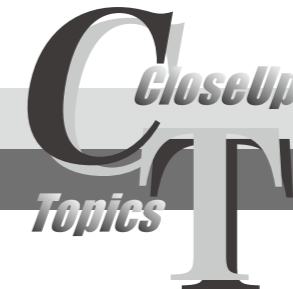
橋田さん(中央)の説明を聴きながらヒグマの毛皮に触れてみる子どもたち

和琴小学校(鳴海厚校長)で7月17日「ヒグマの授業」が行われました。校区内でヒグマの目撃情報が相次いでいることから、安全に共存できるように正しい知識を身につけてほしいと開催されたものです。講師は野生動物教育研究室WEL(ウェル)主宰の橋田真澄さん(美留和)。橋田さんは、北海道大学ヒグマ研究グループでヒグマの調査を行っていた方です。この日は、同研究室オリジナルのヒグマカルタやヒグマの着ぐるみ、ヒグマの頭がい骨や毛皮などを使ってヒグマの生態や特徴、ヒグマに遭わないためにどうしたらよいかなどについて話し、児童は真剣に聴き入っていました。

また同日、くっしゅろ講座「ヒグマが教えてくれること」が屈斜路研修センターで開催されました。

講座は、地域活動団体「チームくっしゅろ」(斎藤敬子代表)が地域への理解を深めてほしいと開催しているもので今回で2回目。約50人が参加しました。初めに役場農林課職員がヒグマを寄せ付けないポイントを、釧路総合振興局環境生活課の職員がヒグマの映像を使って現状を説明しました。さらに、前述の橋田さんがヒグマの生態について語り、参加者の皆さんからは活発な質問や意見が上がるなど、関心の高さがうかがえました。

町の話



町の話

緑のまちづくりに役立てて

緑の募金運動



弟子屈高校生徒会の皆さんから吉備津副町長に募金が

緑の募金運動は約3カ月間行われ、自治会や企業、学校、個人の皆さんなどから募金をいただきました。6月30日には弟子屈高校(木村浩士校長)生徒会の皆さんが、7月1日には弟子屈中学校(杉山稔校長)生徒会の皆さんが役場を訪れ、生徒や教職員の皆さんから協力していただいた募金を徳永町長、吉備津副町長に手渡しました。

募金は、町内の緑化推進に役立てられます。

緑化推進の一環として行われた緑の募金運動で、町内の皆さんからご協力をいただいた募金が、弟子屈町緑化推進委員会(会長・徳永町長)に寄附されました。



徳永町長に募金を手渡す弟子屈中学校生徒会の皆さん